

「クローン病手記」 山西 謙太郎 21 歳

2012 年 9 月 15 日

1. 自覚症状からクローン病発覚まで

私はクローン病にかかり始めたのは 2011 年 8 月頃でした。一日に何回もトイレに行くようになり肛門から何回か出血もしました。その時私はただの下痢が続いているだけだろうと思っていたのですがその状態が 1 月以上も続いたのでこれは何かおかしいと思い当時下宿先をしていたアパートの近くの診療所で診てもらうことにしました。結局その時は腸過敏性症候群だと診断され処方された薬を飲み続けましたが私の症状は改善されませんでした。

その後 2 カ月近くが経ち 11 月頃に実家に帰った時に少し大きめの病院に行って診てもらうことになりました。その時にすぐに腸検査をしてもらいました。結果が分かるまで半月近く掛かるとのことだったので結果待ちをしている間処方された薬を飲み続けました。そして 2 週間後、私がクローン病にかかっていると分かったのはこの時でした。その後ももう一つ病院に行きましたが結果は変わりませんでした。そして両方の病院でこうわれました「この病気は症状がましになることはあっても完治することはない」と。私はこれかどうやって生きていけばいいのかと何も考えられなくなりました。

2. 松本医院のホームページの発見

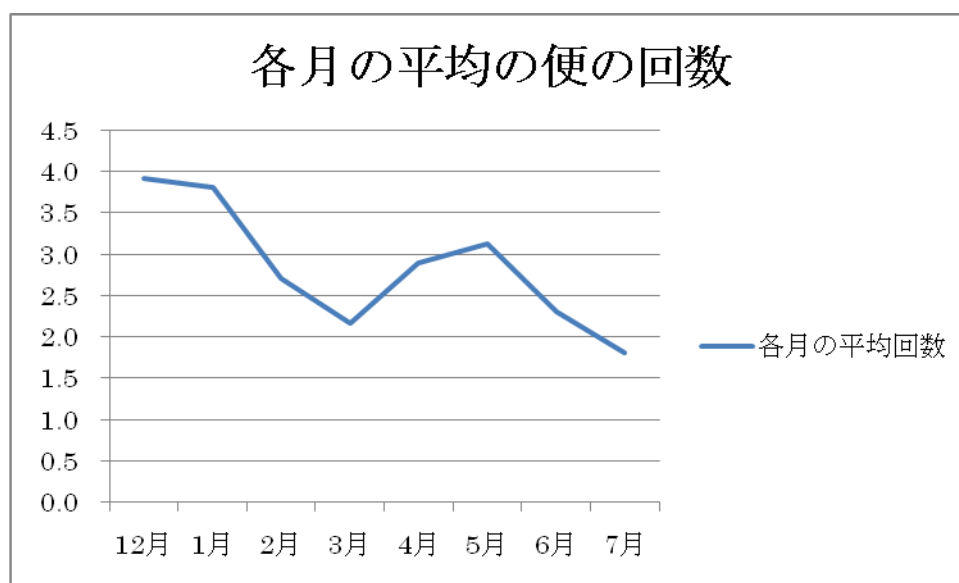
それでも薬を飲まなければ症状が治まらないと聞かされていたので私がクローン病だと分かってからも何週間か処方された薬を飲み続けましたが、正直に言ってあまり症状が改善されることはありませんでした。そして 12 月の初めごろに母が松本医院のホームページを見つけてきてこの病院に行こうと提案してきました。私はいくつか他の患者さんたちの手記を読ませていただき行くことを決めました。その後同月中旬ごろに松本先生の診療を受けました。

3. 症状の推移

診療にかかった後入浴剤と煎じ薬、それとできものができた患部に塗る塗り薬 2 種類を処方されました。煎じ薬は今まで飲んできたどの薬よりも苦かった

ですが今ではもう慣れました口直し必須ですが。なるべく後味が残る物がいいと思います。私はチョコレートを使いました。

始めて病院に行った日から2週間ほど薬を飲み続け、1月の初めごろに両肘に湿疹ができました。小さめの粒粒ができてかゆみを伴うものでしたがそれほどひどいものではありませんでした。その1週間後あたりから口内炎がいくつもできて発熱がありました。発熱と口内炎は2週間近く続き関節の痛み、耳の奥の痛み、喉の炎症といった症状が出ました。特に耳の奥の痛みは物を食べるたびに痛みを生じたのでつらかったです。熱や痛みがひいた後も私の場合は幸いにも2012年8月現在リバウンドらしき症状はこの一回で済んでいます。もともと60キロ近くあった体重が、病気がひどかった時は53キロ近くに減っていたのですが58キロ近くまで戻りましたし、一日の便の回数も1~2回くらいにまで減らすことができました。以下のグラフが松本医院に通ってからの便の回数の推移になります。



4月終わりから5月あたりに回数が増えていますが、これは一身上の理由で働かなければならない状況になって、ストレスがかかったせいだと思います。

ですが、病院に通い始めてから、明らかに回数が減っていることが分かります。

いろいろと拙い文章をぐだぐだと書かせていただきましたが、どなたかの検索にひっかかれば幸いです。